

安倍総理とアボット首相  
共同声明  
“21世紀のための特別な戦略的パートナーシップ”

トニー・アボット首相は、7月7日から10日まで、安倍晋三総理大臣と安倍昭恵夫人をオーストラリア政府の公賓としてオーストラリアに歓迎できることを悦ばしく思った。安倍総理の訪問は、非常に成功したアボット首相の2014年4月の日本政府公賓としての日本訪問を受けて行われた。

安倍総理が7月8日にオーストラリア議会で行った演説は、日本とオーストラリアとの間の長く深く深い友情、両国の持続的な経済関係、平和、安定及び繁栄について共有された戦略的利益並びに人と人との強いつながりを強調した。安倍総理は、オーストラリアの人々に対し、2011年の津波直後の彼らの確固たる支援に対して感謝しつつ、両国の多くの協力分野を強調した。

7月8日の会談で、両首脳は、民主主義、人権、法の支配、市場の開放と自由貿易を含む共通の価値と戦略的利益に基づく、日本とオーストラリアとの間の特別な関係を確認した。両首脳は、特別な関係を前進させるため、毎年、日本とオーストラリアとで交互に会合することを確認した。

( 経済関係 )

両首脳は、1957年の通商協定以降、二か国間で最も重要な経済協定である日本とオーストラリアとの間の経済連携協定(EPA)に署名した。日豪EPAは、今後数十年の二国間の貿易と投資の拡大を支え、二国間の経済関係を新しい段階へと引き上げる。両首脳は、両国が日豪EPAを可能な限り早期に発効させるよう取り組むことを確認した。

両首脳とオーストラリア及び日本のビジネスリーダーらとの議論では、液化天然ガス及び石炭への投資を含む日本からの投資を継続することによって、日本への資源とエネルギーの最も重要な供給地の一つとして未来に向けてオーストラリアを位置付けることを確認した。ビジネスリーダーらは、日豪EPAを、製造業、農業、そして金融業を含む貿易関係の成長を飛躍させるものであると指摘した。

両首脳は、世界経済を加速させ、民間部門を開放し、雇用を創出する上で、G20の枢要な役割を強調した。ブリスベンにおけるG20首脳会合をわずか4ヶ月先に控えて、両首脳は、貿易を加速化させ、社会基盤等への投資を奨励する熱意を行動へと変えるべきであるとの共通の考えを共有した。アボット首相は、日本の国家成長戦略のG20の議題への重要な貢献を称えた。安倍総理は、オーストラリア政府の、炭素税と鉱業税の廃止を含む経済改革についての議題を歓迎した。両首脳は、熱意を掲げ、首脳会合が我々のために、経済成長、雇用、そして将来のショックを切り抜ける世界経済、といった具体的な結果をもたらすことを確かにするよう、

共に働くことを確認した。

両首脳は、APECや質の高い貿易の自由化及び投資協定に関する交渉といった地域の自由貿易を拡張する方策によって推進される、地域の経済統合の深化を歓迎した。両首脳は、地域の自由貿易、投資、経済成長を促進し、ルールに基づいた貿易システムの強化のために、包括的で、野心的かつバランスのとれた環太平洋パートナーシップ(TPP)協定を可能な限り早期に締結するとのコミットメントを確認した。両首脳はまた、近代的、包括的で、質の高い、互恵的な東アジア地域包括的経済連携(RCEP)を実現するために共に働く。

両首脳は、石炭の経済性及び供給安定性を理由に多くの国が石炭火力発電を選択しているとの事実を考慮し、より効率的な石炭火力発電所の導入の促進は、現実的な気候変動対策であるとの見解を共有し、この見解を国際場裡で共有していくことの重要性を認識した。

両首脳は、市場原理に基づいた競争力ある価格による、液化天然ガス(LNG)の安定的で安全な貿易と投資の継続的な重要性について、また、柔軟なガス市場のさらなる促進の重要性について確認した。

両首脳は、宇宙及び情報通信技術(ICT)分野における協力を強化し、事務レベルのICT政策対話を立ち上げた。両首脳は、また日本の準天頂衛星システム(QZSS)を活用したG空間プロジェクトの推進に向けた協力を強化する。

#### ( 安全保障・防衛協力 )

安倍総理とアボット首相は、国際の平和と安定を支える最近の二国間の防衛・安全保障関係の進展と深化を歓迎した。これは、オーストラリアと日本が、地域及びそれを超える地域において効率的に協力できることを確保すべく、2007年の安全保障に関する共同宣言の上に築かれる。アボット首相は、日本による、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」に係る最近の取組、及び、国連憲章の集団的自衛権の行使を含む、安全保障の法的枠組みの再構築に支持を表明した。

両首脳は、実際の防衛協力を強化するための、日本とオーストラリアの外務・防衛閣僚からの提案を喜んで承認した。同提案は、訓練・演習の拡充、人的交流の拡張及び人道支援・災害救援、海上安全保障、平和維持、能力構築及び米国との三か国協力を通じて、二国間の安全保障・防衛関係を深化させる。両首脳は、共同運用と訓練を円滑化すべく行政的、政策的及び法的手続きを相互に改善する協定の作成に向けて交渉を開始すると決定した。

両首脳は、日豪防衛装備品・技術移転協定に署名した。本協定は、船舶の流体力学を含む、互いの関心分野における防衛装備品及び技術の共同研究、開発及び製造を通じ、日豪間でより深化した協力を促進する。

アボット首相は、第一次世界大戦に赴くオーストラリア・ニュージーランド合同軍団(ANZAC)部隊を輸送し、日本海軍軍艦「伊吹」によって護衛された最初の船団の100周年祝賀行事に、海上自衛隊の艦艇が参加することを本年11月に歓迎できることを期待した。

( 地域・国際情勢 )

両首脳は、日豪それぞれの米国との同盟関係が地域の平和と安全に貢献していることを再確認した。両首脳は、この地域に対する米国の継続的かつ強く多面的な関与を歓迎し、米国のアジア太平洋重視政策(リバランス)への強い支持を強調した。両首脳は、日米豪閣僚級戦略対話(TSD)の重要性を再確認し、実地的な3か国協力を更に強化することとした。両首脳はまた、地域が直面する戦略的、政治的及び経済的な課題に取り組む重要なフォーラムとしての東アジアサミット(EAS)の重要性を強調し、その役割を強化するために協働することとした。

両首脳は、法の支配の促進、平和及び安定、妨げられない貿易並びに公海上における航行及び上空飛行の自由の重要性を再確認した。両首脳は、力や威圧による東シナ海及び南シナ海の現状を変更するいかなる一方的な試みにも反対した。両首脳は、平和的手段により紛争や問題が解決されることの必要性を強調しつつ、全ての関係主体に対し、緊張を高めかねない行動を差し控えること、1982年の国際連合海洋法条約(UNCLOS)を含む国際法に基づいて主張を明確化し、追求すること、及びASEANと中国が南シナ海の実効的な行動規範に早期に合意することを呼びかけた。

両首脳は、事務当局に対し、太平洋地域において協力を強化するために協調された戦略を策定すべく、優先事項の特定のための協議を開始するよう指示した。同戦略は、太平洋地域における経済的繁栄、平和及び安定を支える。

両首脳は、不拡散・軍縮イニシアティブ(NPDI)を通じたものを含め、核軍縮及び不拡散を促進する二国間の緊密な連携を歓迎した。両首脳は、2015年核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議の成功、包括的核実験禁止条約(CTBT)の早期発効に向けた積極的な貢献を含む、広島での第8回NPDI閣僚会議の結果をフォローアップしていくことにコミットした。

両首脳は、国連安保理改革、平和維持活動及び人道支援活動において協力を継続することを再確認した。

両首脳は、北朝鮮に対し、すべての核兵器及び既存の核計画並びに弾道ミサイル計画を放棄するよう求めた。北朝鮮は、国連安全保障理事会決議の下での義務及び2005年の六者会合共同声明の下でのコミットメントを遵守すべきである。また、北朝鮮は、NPTの下での国際原子力機関(IAEA)包括的保障措置協定を完全に遵守すべきである。両首脳は、北朝鮮における人権に関する調査委員会の活動を支持することを再確認した。両首脳は、北朝鮮による人権侵害を非難し、北朝鮮に対し、拉致問題を含む未解決の人道上の懸念に早急に取り組むよ

う求めた。

両首脳は、地域的及び国際的課題をマネージし対応するため協働することを決意した。両首脳は、中東情勢、特にイラク及びシリアにおける紛争並びに地域的不安定及びテロ輸出の新たなリスクにつき議論した。両首脳は、ウクライナ情勢につき意見交換した。

( 文化・人的交流 )

安倍総理とアボット首相とは、相互理解を増進するため、日本とオーストラリアとの双方向の学生の流れを促進するとのコミットメントを新たにした。オーストラリア政府は、新コロポ計画の下、日本で学ぶオーストラリアの学部生の数を増加する。日本政府は、海外留学支援制度や「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」を通じて、オーストラリアで学ぶ日本人学生数を増加する。両首脳は、東京大学及びオーストラリア国立大学(ANU)豪日研究センターにリオ・ティント社による豪日研究の寄付講座を設立するとのコミットメントや、立命館大学とANUとの最近の協力の進展を暖かく歓迎した。

安倍総理は、計画されているスマートゲート自動国境処理システムの拡張を通じて、オーストラリアに到着する日本人の入国手続を簡素化するとの決定を歓迎した。

両首脳は、オーストラリアにおける2015年AFCアジアカップ並びに日本における2019年ラグビーワールドカップ及び2020年の東京オリンピック・パラリンピックの成功のために協力するとの意図を確認した。

1. アボット首相と安倍総理は、両国間の相互理解の深化及び二国間関係の更なる強化を支援するために、両国間の学生及び研究者の双方向の交流を促進させるべく、コミットメントを新たにした。

#### 学生交流計画

2. 安倍総理とアボット首相は、オーストラリア政府の「新コロポ計画」並びに日本政府の海外留学支援制度や「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」を通じて、双方向の学生の流れを促進する。日本政府は、2014年度にオーストラリアで学ぶ日本人学生を2000名支援する。オーストラリアは、学生交流計画によりオーストラリアで学ぶ日本人学生を支援するため、関係機関からなる連絡会議を設立する。
3. 両首脳は、日豪「新コロポ計画友の会」による支援の下、日本における「新コロポ計画」の円滑な開始及び実施を歓迎した。「新コロポ計画」は、既存のプログラムに加え、パイロット期間中に日本での留学計画に参加するオーストラリアの学部生400名以上を支援している。両首脳は、日本で留学する「新コロポ計画」奨学生の年間最優秀学生を表彰する岸フェローの設立を歓迎した。

#### 学術交流の促進

4. 両首脳は、学術交流の重要性を認識し、政治経済関係、アジア太平洋地域における協力、技術及びイノベーション、学生交流及びオーストラリアにおける日本語教育の発展についての共同研究及び有識者交流を促進させることを目的に、オーストラリア国立大学豪日研究センター及び東京大学リオ・テイント社寄付講座・豪日研究センターを支援する。日本政府は、これらのセンターに対し、研究促進及び／又は学術交流の為に必要な支援を行う。両首脳は、これらの取り組みに対する民間セクターからの有益な支援を歓迎した。両首脳はまた、学生交流、合同学部授業に向けた協議及び研究者交流の分野での最近の立命館大学とオーストラリア国立大学との協力を歓迎した。

#### 日本語教育の促進

5. 両首脳は、オーストラリアでの学習者が30万人も存在する日本語は、学校で最も教えられている言語の一つであること、また、国際交流基金が実施する日本語教育プログラムの有益な貢献を認識しつつ、オーストラリアにおける日本語教育への支援を継続する。

#### 国会議員の交流

6. 両首脳は、両国間の国会議員の積極的な交流を歓迎する。この文脈において、両首脳は本年4月の豪日議員グループ及び5月の日豪友好議連の設立を歓迎した。